

令和7年三重県議会定例会 予算決算常任委員会

提出資料

	頁
○令和6年度マネジメントシート	
1 こころの医療センター院長	2
2 一志病院院長	4
3 病院事業庁長	6

[参考]

○令和7年度マネジメントシート	
1 こころの医療センター院長	8
2 一志病院院長	10
3 病院事業庁長	12

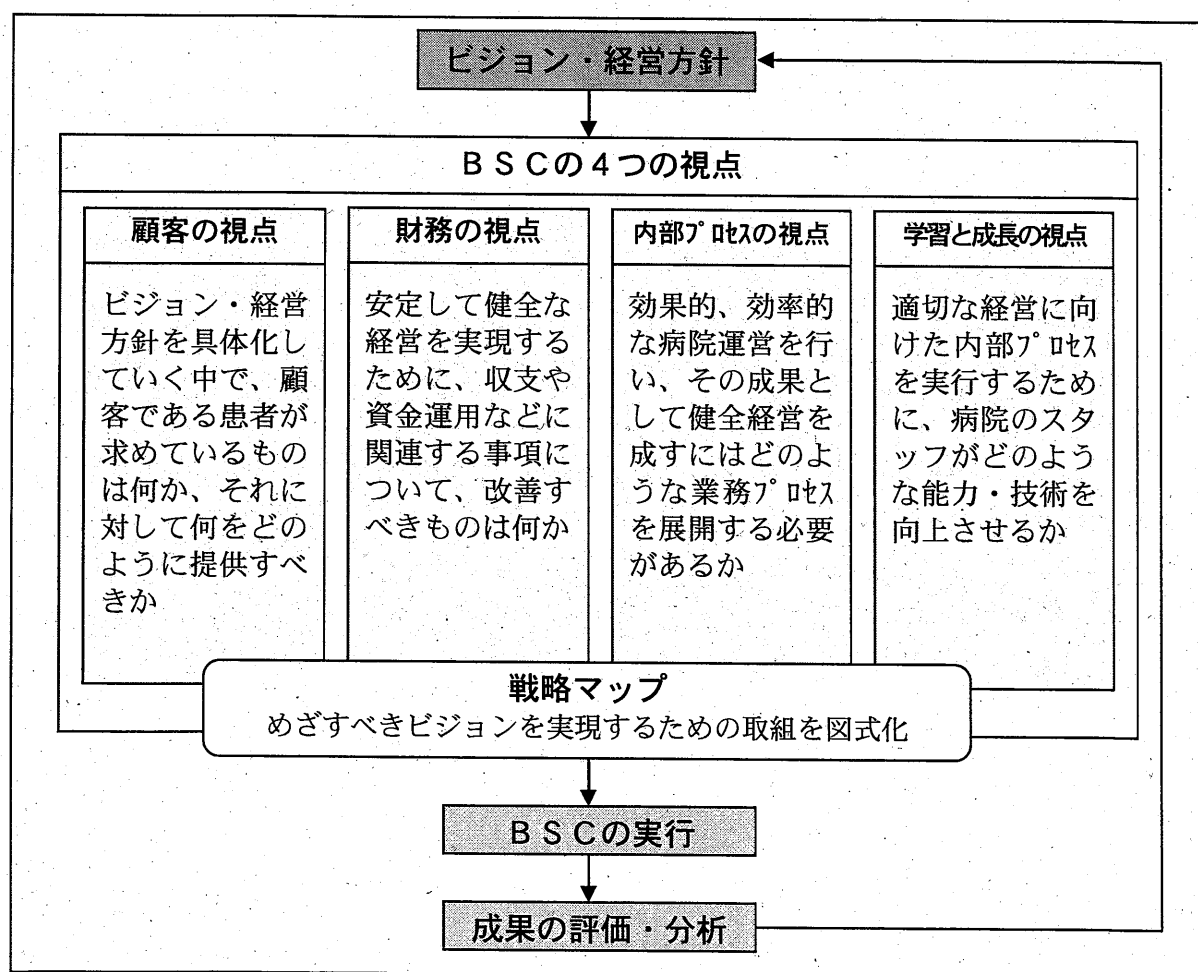
令和7年10月9日
病院事業庁

病院事業庁長及び各病院長のマネジメントシートについて

病院事業庁では、平成 14 年度から病院運営を行うにあたって、戦略を具体化し、実行するためのマネジメントシステムである「バランス・スコアカード（BSC）」を導入し、病院事業庁長及び病院長が 1 年間の運営方針と主な取組を 1 枚のシート（マネジメントシート）にまとめて進捗管理を行っています。

《マネジメントシートの構成》

- ・「ビジョン」を掲げるとともに、そのビジョンを達成するための「経営方針」を策定しています。
- ・ビジョンを達成するための戦略目標や業績評価指標を、BSCの考え方に基づき、4つの視点で分類しています。



令和6年度 こころの医療センター 院長マネジメントシート

病院名	こころの医療センター						
ビジョン	県民の皆さんのより良いこころの健康をめざし、精神科疾患があっても地域で安心して暮らせるよう、医療のサービスを提供します。						
経営方針	・精神科の医療倫理を遵守し、患者や家族の皆さんの視点に立った良質で満足度の高い医療サービスを提供しながら、健全な病院 ・政策的医療や専門的医療、災害医療の取組において、県内の精神科医療における中核病院としての役割を担い、県の精神科医療						
区分	経営シナリオ	目標	主な成果 (重要成功要因)	業績評価指標	R5 実績	R6 目標	R6 実績
顧客の 視点	開かれた病院経営 早期社会復帰の推進 社会ニーズに応じる精神科専門医療の提供 多職種連携・タスクフォースの取組	◎重点取組事項	満足度の高い医療の提供	患者満足度 (%)	86.0	95.0	87.5
		早期社会復帰の推進	新患者の寛解率の向上	新患者の寛解率 (%)	68.2	60.0	70.7
			地域生活支援体制の充実	デイケア・ショートケア延べ患者数 (人)	9,483	12,500	9,558
				訪問看護延べ患者数 (人)	3,803	5,000	3,901
				在院3か月以内退院率 (%)	79.4	77.6	81.6
				家族等にむけた研修会の開催件数 (件)	24	24	26
		社会ニーズに応じる精神科専門医療の提供	精神科救急・急性期医療の推進	精神科救急患者・緊急対応患者受入件数 (件)	488	460	497
			地域医療機関との連携	障害福祉サービス事業所等との連携取組件数 (件)	9	9	9
				医療機関訪問件数 (件)	288	200	242
			精神科早期介入の推進 県民ニーズの高い精神科医療の取組	YMSC新規相談件数 (件)	223	200	209
				アルコール依存症入院患者数 (人/日)	21.7	30.0	18.2
				認知症入院患者数 (人/日)	32.5	40.0	29.3
こころしっとこセミナー開催件数 (件)	35	35	32				
財務の 視点	医療収支改善 多職種連携・タスクフォースの取組	◎重点取組事項	臨床・経営指標に基づいた病院運営の確立	臨床・経営指標の追加・充実	充実	充実	充実
		医療収支改善	経常収支比率 (%)	97.1	94.1	83.4	
			医療収支比率 (%)	57.5	63.5	52.7	
			1日平均入院患者数 (人/日)	203.7	230.0	193.7	
			1日平均外来患者数 (人/日)	180.8	200.0	178.2	
内部プロセスの 視点	救急急性期病院への体制整備 精神科倫理に則った病院運営 多職種連携・タスクフォースの取組	◎重点取組事項	経営改善の方向性決定	病棟機能の再構築	検討・実施	検討・実施	検討・実施
		医療体制の構築	常時急性期患者受入体制の確立	措置鑑定対応件数 (件)	100	50	80
			医師の充足	医師充足率 (%)	79.2	100.0	83.1
			看護師の充足	看護師充足率 (%)	98.9	100.0	100.0
			災害時医療体制の確立に向けた取組	災害訓練実施回数 (回)	1	1	1
		精神科倫理に則った病院運営	医療安全・感染管理の徹底	危機管理研修等参加率 (%)	99.7	100.0	100.0
学習と成長の 視点	専門性の向上 精神科をリードする取組 風通しの良い職場づくり 多職種連携・タスクフォースの取組	◎重点取組事項	コンプライアンスの徹底	倫理委員会(研修)開催数 (回)	2	2	2
		専門性の向上	専門能力を身につけた職員の増加	人材育成研修回数 (回)	5	6	6
		三重県の精神科をリードする取組	精神科医療スタッフの育成	研修医・看護実習生等受入延べ人数 (人)	2,168	1,900	1,663
		風通しの良い職場づくり	職員満足度の向上	職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的な回答割合 (%)	—	73.0	70.3

運営を進めます。
をリードします。

アクションプラン	実績評価	次年度への課題
・患者様アンケートを通じた患者ニーズの把握、サービス改善の取組 ・ホームページの改善(見やすさ・分かりやすさの向上、重要情報の適切な配置等)	初診予約枠の拡大やホームページの改善などのサービス改善の取組を行い、満足度は前年度を上回ったものの、目標を達成できなかった。	アンケート結果や他病院での取組を参考にサービスの改善を図るとともに、ホームページの改善を継続して実施する。
・早期、急性期医療の充実 ・地域生活支援体制の推進	寛解率の向上に向け、入院中に付加価値のある支援を行い、目標を達成した。	引き続き、急性期医療の充実を図りながら寛解率の向上を図っていく。
・プログラムの充実により集客を図る取組	プログラムの工夫により前年度に比べ利用者が若干増加したが、天候・気温の影響等により利用が控えられ、場合があり、目標を達成できなかった。	ニーズに応えられるようプログラムを充実させるとともに、関係機関や当事者に取組が伝わるよう、情報を発信する必要がある。
・利用者の地域生活を支援していくための質の確保	就業時間との兼ね合いや民間事業者との競合もあり、利用者が伸び悩み、前年度実績を上回ったものの目標を達成できなかった。	病院とのつながりを維持しつつ、利用者の地域生活を支援していくための質を確保していく。
・地域の関係機関との連携及び日中活動支援等の充実	関係機関と連携した退院支援や多職種が連携し、病状に応じた適切な治療を行うことで、目標を達成した。	引き続き、関係機関との連携及び日中活動等の支援の充実を図る必要がある。
・家族にむけた研修会の着実な実施	認知症家族教室8回、アルコール家族研修会12回、CRAFT6回を実施し、目標を達成した。	職員に対する家族支援の研修を充実するとともに、情報発信していく。
・精神科救急患者、緊急対応患者受入体制の確保	24時間365日の緊急入院受入体制により、積極的に患者を受け入れたことにより、目標を達成した。	引き続き、三重県精神科救急医療システムの支援病院として受入体制を維持していく。
・地域連携ミーティングの開催及び協働事業の開催	地域の関係機関との連携会議や、実務者研修会の開催などにより、目標を達成した。	引き続き、地域の医療機関や福祉施設等の事業所との連携を深める必要がある。
・関係性の深い医療機関との連携強化 ・当院の積極的な売り込み	積極的に医療機関訪問を行い、目標を達成し、地域からのニーズに応えられる態勢を整えた。	引き続き、病棟連携に取り組み、患者紹介の受入れを進めていく。
・早期介入拠点(YMSC-MIE)の充実、ケースマネジメント体制の確立	若年層やその家族等からの相談への対応や、学生、教員、保護者や関係機関を対象に研修会を実施し、目標を達成した。	早期介入拠点(YMSC-MIE)の充実を図るとともに、AYA世代(思春期・若年層)病棟とも連携を深めていく。
・アルコール相談の実施、他医療機関との連携	タスクフォースで関係機関への働きかけや、治療プログラムの改善などの取組を行ったが、目標を達成できなかった。	タスクフォースの取組を継続するとともに、情報発信や新しい取組を検討する必要がある。
・認知症相談の実施、他医療機関、施設との連携	タスクフォースで行政機関・介護施設・医療機関等との連携強化の取組を行ったが、目標を達成できなかった。	タスクフォースの取組を継続するとともに、認知症治療や予約の取りやすさについて情報発信を行う必要がある。
・精神科医療取組の広報・啓発、講師の育成等	申込みには全て対応したものの、目標をわずかに達成できなかった。	取組についての広報や啓発を行う一方で、各テーマにかかる講師の育成を続ける必要がある。
・臨床・経営指標の追加等、データ分析	院内の経営会議や供覧で、自院や他病院の各種指標を示すことにより、職員の意識を高めたほか、経営改善プロジェクトでテーマごとに話し合いを重ねた。	引き続き、臨床・経営指標に基づいた病院経営を進めるとともに、院内の経営会議等での周知や話し合いによる意識の向上を図っていく。
・精神科専門治療の充実 ・精神科特定入院料の算定 ・収支改善に向けた病院機能の検討 ・病棟機能の明確化と病棟間の連携 ・他医療機関、施設との連携	タスクフォースでの取組(診療単価の向上等)で医業収益の確保に努めたが、新型コロナに係る交付金の皆減や給与費の増等により、収支比率は悪化し、目標を達成できなかった。 タスクフォースでの取組(初診予約枠の拡大、緊急入院受入体制整備)を行ったが、入院・外来ともに患者数は前年度を下回り、目標を達成できなかった。	引き続き、病院機能の検討や、タスクフォースの取組(病床コントロール等による入院収益の向上、検査件数や作業療法件数などの増加の取組、経費の削減)を続ける必要がある。 精神科専門治療を充実させ、病棟機能の明確化と病棟間の連携、オーバードーズ対応など他医療機関、施設との連携により患者数の回復を図る必要がある。
・東1病棟改修工事の完成をふまえた病棟機能の院内での検討	東1病棟の精神科急性期治療病棟化を達成した。	各病棟の今後の在り方について、院内会議での検討を継続していく。
・県健康推進課・保健所等との連携、院内救急体制整備	積極的に受け入れる体制を維持することで、目標を達成した。	引き続き、院内の受入体制を常に維持するとともに、保健所等と連携し、積極的な受入れを図っていく。
・研修や資格取得へのバックアップ体制を強化するなど医師に魅力ある病院づくりの取組	大学医局との繋がりを活かし医師の確保を図り、前年度より医師数は増加したものの、目標は達成できなかった。	研修や資格取得へのバックアップ体制を強化するなど、医師に魅力ある病院づくりを進めていく。
・育児・介護のための休暇等が取得しやすい勤務環境を整備するなど魅力ある病院づくりの取組	看護師の定着対策に努めるとともに、学校訪問や育児休業中職員への説明会などに取り組み、目標を達成した。	勤務環境の整備など、魅力ある病院づくりを進める必要がある。
・震災、感染症及びサイバー攻撃に係るBCPマニュアルの実効性を高める取組	2月に震災に係るBCP訓練を実施した。	今後も実効性のあるBCPマニュアルとなるよう、訓練を行っていく。
・医療安全研修の複数回実施、未受講者への受講勧奨	医療安全研修を2回、感染対策研修を3回実施し、声掛け等により、目標を達成した。	引き続き、未受講者への声掛けを行う必要がある。
・職員の精神科医療における倫理意識向上のための研修の実施	虐待防止対策にかかる研修を実施し、目標を達成した。	引き続き、ニーズに応じた研修を実施し、職員の倫理意識の向上を図る必要がある。
・職員のスキルアップのための体系的な院内研修の実施 ・職員表彰制度の継続実施	トピック研修3回、ブラッシュアップ研修1回、出張報告会2回を実施し、目標を達成した。	ニーズに応じた研修を実施し、職員のスキルアップを図っていく。
・院内受入体制の整備 ・研修プログラムの見直し、充実	積極的な受入れを行ったが、看護学生数自体の減少等の影響もあり、前年度実績を下回り、目標を達成できなかった。	県内の精神科医療水準の向上のため、実習生等を積極的に受け入れていく必要がある。
・タスクフォースによる改善の取組	改善の取組を行ってきたが、前回実績(R4:71.5%)を下回り、目標を達成できなかった。	引き続き、タスクフォースでの取組を行っていく必要がある。

令和6年度 一志病院 院長マネジメントシート

病院名	一志病院						
ビジョン	安心してこの地域で生活し続けられる医療を提供し、全国の医療過疎を解決する病院のモデルになります。						
経営方針	・あらゆるニーズに対応するプライマリ・ケアを実践します。 ・県民の皆さんが信頼し、自慢できる病院を目指します。 ・プライマリ・ケアを担う人材を育成します。 ・職員の意欲と能力の向上に努めます。						
区分	経営シナリオ	目標	主な成果 (重要成功要因)	業績評価指標	R5 実績	R6 目標	R6 実績
顧客の 視点	全国の医療過疎を解決する病院のモデル プライマリ・ケアの実践 県民の皆さんが信頼し、自慢できる病院 県内への医師等の定着	プライマリ・ケアの実践 (全人的な医療サービスの提供)	かかりつけ患者の増加	1日平均外来患者数(人/日)	55.0	61.0	51.9
			入院患者の増加	1日平均入院患者数(人/日) 【病床稼働率(%)】	33.4 【72.7】	36.0 【78.3】	32.4 【70.5】
		県民の皆さんが信頼し、自慢できる病院 (顧客満足度の高い医療の実践)	県内医療過疎地域への貢献	医療過疎地域等への支援件数(件)	3	5	3
			患者及び家族の満足度向上	患者満足度(%)	97.7	96.6	98.5
財務の 視点	経営の健全化	経営の健全化	収支の改善	経常収支比率(%)	108.4	100.3	105.2
				医業収支比率(%)	65.1	63.3	66.4
内部プロセスの 視点	地域に最適な医療体制づくり 地域医療 - 包括的なケア - 多職種連携 - 住民参画型 総合診療医 教育 - 地域医療を担う人材の教育 研究 - 家庭医療、地域医療、医療教育に関する研究	地域に最適な医療体制の構築	医師の充足	医師充足率(%)	100.0	100.0	100.0
			看護師の充足	看護師充足率(%)	100.0	100.0	100.0
			関係機関・地域住民との連携強化	多職種連携による取組件数(件)	18	15	18
		総合診療医を中心とした地域医療	在宅療養の充実	訪問診療、訪問看護等延べ患者数(人)	4,147	4,700	3,692
			救急医療体制の確立	救急患者受入件数(救急車搬送患者を含む)(件)	680	750	549
			予防医療の実践	住民健診、人間ドック、がん検診、特定保健指導受診者数(人)	973	1,200	946
		プライマリ・ケアを担う人材の育成 (地域医療を担う人材の教育)	研修医・医学生受入体制の充実	研修医・医学生受入延べ人数(人)	427	500	598
			看護師等育成の支援	看護実習生等受入延べ人数(人)	336	350	256
			プライマリ・ケアセンターへの支援	プライマリ・ケア研修会開催件数(件)	3	3	3
		プライマリ・ケアに関するエビデンスの創出 (実践的かつ先進的な研究の実施)	家庭医療等に関する研究の実施	学会、論文等発表件数(件)	13	20	21
学習と成長の 視点	職員の意欲と能力の向上 風通しの良い職場づくり	職員の意欲と能力の向上	危機管理対策の向上	危機管理研修等参加率(%)	100.0	100.0	100.0
		風通しの良い職場づくり	職員満足度の向上	職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的な回答割合(%)	-	75.0	75.8

・プライマリ・ケアに関するエビデンスを創出します。 ・継続的な医療の提供のために経営の健全化に取り組みます。		
アクションプラン	実績評価	次年度への課題
・総合診療を中心とし、地域ニーズに合わせた外来診療体制の充実を図る。 ・予防医療やリハビリテーション、健康相談などを含む全人的な医療サービスを安定的に提供する。	整形外科診療枠の確保など地域ニーズに合わせた外来診療に取り組んだものの、当院診療圏の人口減、高齢化に伴う医療福祉施設入所等により外来患者が減少し、目標を達成できなかった。	常勤医体制の充実、整形外科診療枠の増加、木曜午後の隔週診療枠の新設などの対応を活かし、外来患者数の増加を図る必要がある。
・診療所、福祉施設、他の急性期病院等との連携を強化し、紹介患者数の増加を図る。 ・病床状況、平均在院日数等の情報を関係セクションで共有し、目標達成に向けた対策を講ずる。	他の医療機関等との連携強化や院内での情報共有に努めたものの、外来患者数や救急患者数の減により新規入院患者が減少し、目標を達成できなかった。	診療所、福祉施設、他の急性期病院等との連携を強化し、紹介患者数の維持を図るとともに、病床状況、平均在院日数等の情報を関係セクションで共有し、入院患者の増加を図る必要がある。
・へき地医療拠点病院として、県へき地医療支援機構の要請に基づくへき地診療所への代診医の派遣や、津市の要請による診療所への医師派遣を通じた医療過疎地域の診療支援を行う。	津市の要請による診療所への医師派遣を通じた医療過疎地域の診療支援を行ったものの、県へき地医療支援機構の要請に基づくへき地診療所への代診医派遣の要請がなく、目標を達成できなかった。	津市からの要請に引き続き応えようとするとともに、常勤医体制の充実を活かし、引き続き、県からの代診医派遣要請に的確に対応していく必要がある。
・患者様アンケートを通じて患者のニーズを把握し、サービス改善に取り組む。 ・接遇研修を実施し、職員の接遇能力の向上を図る。	患者様アンケート等を通じて患者のニーズを把握し、待合室等の環境改善などサービス改善に取り組んだ結果、目標を達成した。	引き続き、迅速なサービス改善に取り組むとともに、接遇研修を継続し、職員の接遇能力の向上を図る必要がある。
・入院、外来患者数増や単価増により収益増を図る。 ・予防医療受診者の増により収益増を図る。 ・診療報酬改定への対応や、請求漏れ、減点対策等に取り組む、収益増を図る。 ・材料費、経費等の節減に努めることにより費用減を図る。	新型コロナに係る国からの交付金の皆減や給与費の増等の影響があるものの、入院単価増による増収などにより、ともに目標を達成した。	さらなる費用の増が見込まれるため、患者数の増加に向け、受入れ体制の強化や他医療機関との連携等に努めるなど、収益を増加させる必要がある。
・総合診療医の育成拠点としての研修環境を整備するなど医師にとって魅力ある病院づくりに取り組む。 ・育児・介護のための休暇等が取得しやすい勤務環境を整備するなど看護師にとって魅力ある病院づくりに取り組む。 ・保健・医療・福祉連携会議の開催等により、関係機関と連携した取組を図る。 ・「顔の見える会」の活動等の取組を通じ、地域住民との連携を図る。 ・地域行事等へのボランティア参加を推奨し、地域貢献に努める。	非常勤医師を充実させることで、目標を達成した。 当院の取組に係る情報発信や看護師が働きやすい職場環境づくり等に取り組んだことで、目標を達成した。 保健・医療・福祉連携会議の開催等により関係機関との連携を強化したほか、地域貢献として、地域住民等の要望に応え、出前講座を開催し、目標を達成した。	常勤医師が増えたが、引き続き、医師にとって魅力ある病院づくりや大学などへの働きかけに取り組む必要がある。 充足している状況ではあるものの、引き続き、働きやすい環境整備等、人材確保の取組を継続する必要がある。
・関係医療機関、保健・福祉機関と連携し、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問薬剤指導、訪問栄養指導の件数増を図る。	当院診療圏の人口減、高齢化に伴う医療福祉施設入所等により、在宅医療の対象者が減少していると考えられるほか、常勤医不足や、包括病床でのリハビリに注力せざるを得なかったことも影響し、目標を達成できなかった。	対象患者の減少は今後も継続すると見込まれるが、常勤医体制が改善されたことを活かし、訪問診療を中心に件数の増加を図る必要がある。
・宿日直体制を維持し、救急患者を受け入れる。 ・救急隊との合同勉強会や救急ホットラインの活用等により連携強化に努める。	消防機関や診療所等との連携に努めたが、人口減や、津地域の他病院における救急体制の強化等の影響により、当院への救急要請件数が減少し、目標を達成できなかった。	常勤医体制が改善されたことを活かし、積極的な受入れを継続する必要がある。
・住民健診、人間ドック、がん検診をPRするとともに積極的に受け入れる。 ・健康教室等の予防医療に係る取組を通じ、健康管理に対する意識啓発を図る。	引き続き、出前講座において予防医療の重要性の周知等を行ったものの、人口減や、高齢化に伴う医療福祉施設入所等により、当院診療圏での対象者が減少していると考えられ、目標を達成できなかった。	常勤医体制が充実し、鼻腔内視鏡を導入したことも活かし、積極的な受入れにつなげる必要がある。
・指導医による人材育成体制を強化し、研修医、医学生を積極的に受け入れる。	受入要請が多く、それに対応し、目標を達成した。	指導医数が限られるなか、後期研修医や初期研修医、学生の受入れを継続するが、教育の質を低下させないようにする必要がある。
・看護師等育成に取り組む機関等と連携し、院内実習等を通じ人材育成の支援を行う。	受入要請自体が少なく、目標を達成できなかった。	引き続き、要請を断ることなく受入れられる看護体制を整え、プライマリ・ケアを担う人材を育成していく必要がある。
・三重県プライマリ・ケアセンターと連携し、プライマリ・ケア研修会の開催を支援する。	プライマリ・ケア エキスパートナース研修会の開催を支援し、目標を達成した。	引き続き、三重県プライマリ・ケアセンターと連携し、プライマリ・ケア研修会の開催を支援していく必要がある。
・カンファレンス等を通じ職員の研究に取り組む意欲を醸成する。 ・研究を行うための職場環境を整える。	積極的に研究に取り組んだことから、目標を達成した。	引き続き、カンファレンス等を通じ職員の研究に取り組む意欲を醸成するとともに、研究を行うための職場環境を整える必要がある。
・職員の医療安全研修、感染管理研修等への積極的な参加を促す。	参加を促すことで全4回とも100%の参加となり、目標を達成した。	引き続き、職員全員が医療安全研修、感染管理研修を受講できる体制を継続する必要がある。
・ライフ・ワーク・マネジメントを推進する。 ・職員のモチベーションの維持・向上に努める。	働きやすい環境整備に努め、目標を達成した。	職場内での対話等を通じて、職員がやりがいをもって、心身ともに充実して働ける職場環境づくりに努める必要がある。

令和6年度 病院事業庁長マネジメントシート

病院名	三重県病院事業庁						
ビジョン	県立病院として良質な医療を安定的・継続的に提供することで、医療の面から県民と地域の安全・安心を支援します。また、医療従事者						
経営方針	県立病院としての役割や求められるニーズに応じた医療を提供するとともに、病院の健全経営を進めます。また、医師・看護師等の人材確保・定着を図るとともに、病院機能の充実、業務改善等に取り組みます。さらに、風通しの良い職場、思いを共有し、共に実践する組織をめざします。						
区分	経営シナリオ	目標	主な成果 (重要成功要因)	業績評価指標	R5 実績	R6 目標	R6 実績
顧客の 視点	安定的、継続的な医療の提供 地域や県民ニーズに応じた医療の提供 良質で安全・安心な医療の提供 患者満足度の高い医療の提供 ●精神科専門医療の提供 ●家庭医療の実践 ●地域に必要な医療体制の整備 ●地域の医療機関等との連携・協力	安定的・継続的な医療の提供	患者満足度の向上	患者満足度 (%)	92.7	95.0	93.5
			県立病院の役割・機能の提供	訪問看護等延べ患者数 (人)	7,950	9,700	7,593
			救急医療の充実	救急患者・緊急対応患者受入件数 (件)	1,168	1,210	1,046
			地域の関係機関等との連携強化	関係機関等との連携件数 (件)	27	24	27
			医療事故の防止	医療過誤数 (件)	1	0	0
			志摩地域における医療提供体制の整備	志摩病院における入院患者数 (人/日)	169.2	180.0	172.4
			外来患者数 (人/日)	247.6	262.0	243.5	
			救急患者数 (人/月)	358.2	362.0	332.2	
財務の 視点	県立病院の健全経営	県立病院の健全経営	経常収支均衡	経常収支比率 (%)	99.8	95.7	88.8
				医業収支比率 (%)	57.9	62.1	54.5
				1日平均入院患者数 (人/日)	237.1	266.0	226.1
				1日平均外来患者数 (人/日)	235.8	261.0	230.1
内部プロセスの 視点	医師・看護師など医療スタッフの確保・定着 病院機能の充実、業務改善、革新 危機管理の推進とコンプライアンスの確立	医療スタッフの確保	人材の確保・定着	医師充足率 (%)	87.4	100.0	87.9
				看護師充足率 (%)	100.0	100.0	100.0
		業務改善の推進	研修医・看護実習生等の受入れ	研修医・看護実習生等受入延べ人数 (人)	2,931	2,750	2,517
			改善活動の定着	業務改善取組テーマ数 (件)	3	3	3
		危機管理の推進とコンプライアンスの確立	災害医療体制の構築	災害時の医療支援訓練実施回数 (回)	7	6	7
			リスクマネジメントの確立実践	医療安全委員会の開催回数 (回)	25	24	24
			コンプライアンスの確立実践	研修会等の実施 (回)	9	9	9
		指定管理者制度導入後の進捗管理	指定管理者による診療体制の充実	管理運営協議会の開催 (回)	2	2	2
学習と成長の 視点	風通しの良い職場づくり チーム力を最大にするコミュニケーションの向上 一人ひとりの職員の専門能力の向上	風通しの良い職場づくり	職員満足度の向上	職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的な回答割合 (%)	—	74.0	73.3
			コミュニケーションの向上	病院現場との定例的な会議の開催 (回/月)	5	5	6
		一人ひとりの職員の力を伸ばす専門能力の向上	専門能力の向上 (スキルアップ)	職員アンケート「プロとして成長しているか」の設問での肯定的な回答割合 (%)	—	73.0	72.8
			職員の危機管理意識の向上	危機管理研修等参加率 (%)	99.9	100.0	100.0

にとって魅力のある病院づくりを進めます。

アクションプラン	実績評価	次年度への課題
- 患者様アンケートの分析、改善活動 - 医療機関、県民等を対象とした研究会、講演会、セミナー、病院まつり等地域医療の水準向上、開かれた病院運営等の積極的な実施 - こころの医療センターにおける地域生活支援機能の充実や一志病院における訪問診療・訪問看護等の在宅療養支援の充実	- 患者様アンケートを通じて患者のニーズを把握しサービス改善等に取り組み、一志病院では目標を達成したものの、こころの医療センターでは達成できず、全体として目標を達成できなかった。 - 民間事業者との競合や診療圏人口の減少等により、目標を達成できなかった。	- 引き続き、患者様アンケートの実施とその結果分析等により患者ニーズを的確に把握し、満足度向上に向けた対策を講じていく必要がある。 - 引き続き、限られた医療資源を効率的に活用し、在宅医療のニーズに応えていく必要がある。
救急医療の提供体制の確保	こころの医療センターでは積極的に患者を受け入れたことで目標を達成したが、一志病院では救急要請が減少したことにより目標を達成できず、全体として目標を達成できなかった。	引き続き、関係機関と連携を図りながら救急患者の受入体制を維持していく必要がある。
- 地域の医療機関や大学、関係機関等との連携・協力関係の取組 - 医療安全管理委員会等での事例収集・再発防止策の検討 - 医療事故防止をテーマとした医療安全研修への職員参加の徹底	- 地域の医療機関や介護、予防等の関係機関と積極的に連携し、目標を達成した。 - 医療安全管理委員会等での様々な取組や医療安全研修を行い、目標を達成した。	- 引き続き、地域の医療機関や関係機関との連携強化に取り組んでいく必要がある。 - 医療安全管理委員会等で事例収集・再発防止策の検討を行うとともに、医療事故に係る研修を通して、これまで以上に職員の意識向上に取り組んでいく必要がある。
指定管理者による柔軟かつ迅速な運営のもと、診療機能の維持・充実に努めるとともに、地域のニーズに応じた医療を提供	地域連携の推進や救急患者を積極的に受け入れたことにより入院患者数は前年度より増加したものの、新型コロナからの回復が十分でなかった影響等により目標を達成できなかった。	引き続き、志摩地域の中核病院としての役割・機能を担っていくよう、指定管理者と密接に連携し、地域の医療ニーズをふまえながら診療機能の維持・充実に取り組んでいく必要がある。
2病院の医療収支比率の改善 - 入院患者数の確保に向けた取組 - 外来患者数の確保に向けた取組	- 経常、医療収支比率について、新型コロナに係る国からの交付金の皆減や給与費の増等により前年度と比べて悪化し、目標を達成できなかった。 - 患者数について、新型コロナからの回復が十分でなかった影響等により目標を達成できなかった。	- 病床管理の適正化等により収益の増加を図るとともに、材料費や経費など費用の縮減に努めていく必要がある。 - 地域のニーズに対応しながら、病病連携の強化やプライマリ・ケアの実践等により、患者の確保に取り組んでいく必要がある。
- 医師確保(県医療保健部との連携、大学等への医師派遣要請等) - 勤務医にとって魅力や働きがいのある職場環境づくり(医師の研修環境の充実、学会等への参加の柔軟化や良好な住環境の確保等) - 看護師の確保・定着のための修学資金制度の周知・活用、看護実習や新人看護師への技術支援体制の充実等	- 大学医局等への医師派遣要請や医学生・研修医等の実習受入れにあわせて、病院の魅力発信等を行い、前年度より若干上昇したが、目標を達成できなかった。 - 看護師が働きやすい職場環境づくりや病院の魅力発信、採用機会の増加等を行い、目標を達成した。	- 引き続き、大学医局等に継続して医師派遣要請を行っていくとともに、医師にとって魅力や働きがいのある病院づくり、研修プログラムの運用、積極的な情報発信などにより、医師確保につなげていく必要がある。 - 取組を継続し、看護師の確保につなげていく必要がある。
- 研修医等の受入体制の確保 - 研修や実習の充実 - 研修指導医、看護実習指導者等の育成	研修医や医学生、看護学生等の実習を積極的に受け入れたが、看護学校における学生数の減少等により目標を達成できなかった。	引き続き、研修生や実習生を積極的に受け入れていく必要がある。
患者等のニーズに応じた改善、ホームページの充実や積極的な情報発信、紙資料・プラスチックごみ削減の3つをテーマに掲げ、業務改善活動を推進	患者等のニーズに対応するため導入した病棟(病床)の適切な運用、ホームページの充実、積極的な声掛けによる紙資料・プラスチックごみ削減に取り組んだ。	患者等のニーズに応じた改善策を講じ、満足度の高い医療サービスを提供していく必要がある。
- 自然災害等を想定した図上訓練の実施等(各病院2回) - 災害支援体制の確立、院内備蓄の整備・充実	- 災害訓練や感染防止に係る研修を実施し、発災時の対応能力の向上を図った。 - 院内の備蓄物資を整備し、災害時の備えを強化した。	各種研修会や訓練等を計画的に実施し、継続的に災害等発生時における対応力の向上やコンプライアンスの徹底を図っていく必要がある。
- 医療安全対策・感染対策の充実、マニュアルの適切な運用・不断の見直し・検討 - 個人情報管理等安全確保のための組織の充実	各病院において医療安全に関する委員会を定期的に開催し、安全な医療を提供する体制づくりに取り組んだ。	BCPに基づく訓練の実施やマニュアルの継続的な見直しを行うなど、災害への備えを進めていく必要がある。
コンプライアンスの確立に向けた取組の実施等(各所属3回)	各所属において過去の発生事例を題材として発生防止と適切な事後対応に係る研修会を実施するなど、コンプライアンスの徹底に取り組んだ。	
指定管理者との連携・調整に係る体制づくり	志摩病院管理運営協議会や毎月の業務報告書の聴き取り等を通じて、運営状況を把握し、課題等について協議・調整を行った。	志摩地域の中核病院として、また、県立病院としての役割・機能を担っていくため、引き続き、指定管理者と密接に連携し診療機能を維持・充実させる必要がある。
- 日頃のコミュニケーションや報告・連絡・相談を大事にした明るく風通しの良い職場づくりの推進 - ライフ・ワーク・マネジメントシート等を活用した対話の実施	風通しの良い職場づくりの推進や、庁内の定期的なミーティング等を通じて、コミュニケーションの充実に取り組んだが、目標をわずかに下回った。	職員満足度の向上を図るため、引き続き、明るく風通しの良い職場づくりやMieるビーイングシート等を活用した対話に努めていく必要がある。
現場やコミュニケーションを重視して思いを伝えあい、共有し、共に実践する組織づくり	病院現場を重視する視点、職員間のコミュニケーションを大切にして、共に実践する組織づくりに取り組んだ。	情報を共有し課題に共に取り組んでいけるよう、有意義なコミュニケーション機会を創出していく必要がある。
研究・研修環境の整備・充実、研究発表の推進(専門分野での資格取得のための支援、研修体系の整備、研修機会の確保と活かせる環境の整備、研究研修費の確保等)	研修への参加を促進するなど、職員の専門性や意識の向上に取り組んだ結果、前回(R4:72.2%)を上回ったが、目標をわずかに下回った。	引き続き、職員の専門性や意識の向上に取り組んでいく必要がある。
医療安全研修会等の開催及び職員参加の徹底	医療安全研修会等の開催や職員参加の徹底を通じて、職員の危機管理意識の向上に取り組んだ。	引き続き、事故を防止するため、研修会の開催等を通じて職員の危機管理意識の向上を図っていく必要がある。

【参考】 令和7年度 こころの医療センター 院長マネジメントシート

病院名	こころの医療センター		
ビジョン	県民の皆さんのより良いこころの健康をめざし、精神科疾患があっても地域で安心して暮らせるよう、医療のサービス		
経営方針	・精神科の医療倫理を遵守し、患者や家族の皆さんの視点に立った良質で満足度の高い医療サービスを提供しながら、 ・政策的医療や専門的医療、災害医療の取組において、県内の精神科医療における中核病院としての役割を担い、県		
区分	経営シナリオ	目標	主な成果 (重要成功要因)
顧客の視点		◎重点取組事項 早期社会復帰の推進 社会ニーズに応じる精神科専門医療の提供	満足度の高い医療の提供 新患者の寛解率の向上 地域生活支援体制の充実 精神科救急・急性期医療の推進 地域医療機関との連携 精神科早期介入の推進 県民ニーズの高い精神科医療の取組
財務の視点		◎重点取組事項 医業収支改善	臨床・経営指標に基づいた病院運営の確立 経常収支比率、医業収支比率の改善
内部プロセスの視点		◎重点取組事項 医療体制の構築 精神科倫理に則った病院運営	経営改善の方向性決定 常時急性期患者受入体制の確立 医師の充足 看護師の充足 災害時医療体制の確立に向けた取組 医療安全・感染管理の徹底
学習と成長の視点		◎重点取組事項 専門性の向上 三重県の精神科をリードする取組 風通しの良い職場づくり	コンプライアンスの徹底 専門能力を身につけた職員の増加 精神科医療スタッフの育成 職員満足度の向上

を提供します。

健全な病院運営を進めます。
の精神科医療をリードします。

業績評価指標	R6 実績	R7 目標	アクションプラン
患者満足度 (%)	87.5	95.0	・患者様アンケート等を通じた患者ニーズの把握、サービス改善の取組 ・ホームページの改善(見やすさ・分かりやすさの向上、重要情報の適切な配置等)
新患者の寛解率 (%)	70.7	60.0	・早期、急性期医療の充実 ・地域生活支援体制の推進
デイケア・ショートケア延べ患者数 (人)	9,558	12,500	・プログラムの充実により集客を図る取組 ・関連機関への周知の見直し
訪問看護延べ患者数 (人)	3,901	5,000	・利用者の地域生活を支援していくための質の確保 ・事業の方向性の検討
在院3か月以内退院率 (%)	81.6	77.6	・地域の関係機関との連携及び日中活動支援等の充実
家族等にむけた研修会の開催件数 (件)	26	24	・家族にむけた研修会の着実な実施
精神科救急患者・緊急対応患者受入件数 (件)	497	470	・精神科救急患者、緊急対応患者受入体制の確保
障害福祉サービス事業所等との連携取組件数 (件)	9	9	・地域連携ミーティングの開催及び協働事業の開催
医療機関訪問件数 (件)	242	200	・関係性の深い医療機関との連携強化 ・当院の積極的な売り込み
YMSC新規相談件数 (件)	209	200	・早期介入拠点(YMSC-MIE)の充実、AYA世代病棟との連携
アルコール依存症入院患者数 (人/日)	18.2	30.0	・アルコール相談の実施、訪問を通じた他医療機関との連携 ・HPや広報誌による情報発信、短期入院などの取組の検討
認知症入院患者数 (人/日)	29.3	40.0	・認知症相談の実施、訪問を通じた他医療機関、施設との連携 ・認知症治療のイメージ、予約の取りやすさのアピール
こころしとこセミナー開催件数 (件)	32	35	・精神科医療取組の広報・啓発、講師の育成等
臨床・経営指標の追加・充実	充実	充実	・臨床・経営指標の追加等、データ分析 ・経営会議等での周知や話し合いによる意識の向上
経常収支比率 (%)	83.4	97.4	・精神科特定入院料の算定 ・病床コントロール等による入院収益の向上
医業収支比率 (%)	52.7	65.3	・収支改善に向けた病院機能の検討 ・検査件数や作業療法件数などの増加の取組 ・経費の削減
1日平均入院患者数 (人/日)	193.7	237.0	・精神科専門治療の充実
1日平均外来患者数 (人/日)	178.2	200.0	・病棟機能の明確化と病棟間の連携 ・オーバードーズ対応など他医療機関、施設との連携
病棟機能の再構築	検討・実施	検討・実施	・新患予約受入体制及び緊急受入体制の強化、クロザピン治療の推進
措置鑑定対応件数 (件)	80	50	・県健康推進課・保健所等との連携、院内救急体制整備
医師充足率 (%)	83.1	100.0	・研修や資格取得へのバックアップ体制を強化するなど医師に魅力ある病院づくりの取組
看護師充足率 (%)	100.0	100.0	・育児・介護のための休暇等が取得しやすい勤務環境を整備するなど魅力ある病院づくりの取組
災害訓練実施回数 (回)	1	1	・震災、感染症及びサイバー攻撃に係るBCPマニュアルの実効性を高める取組
危機管理研修等参加率 (%)	100.0	100.0	・医療安全研修の複数回実施、未受講者への受講勧奨
倫理委員会(研修)開催数 (回)	2	2	・職員の精神科医療における倫理意識向上のための研修の実施
人材育成研修回数 (回)	6	6	・職員のスキルアップのための体系的な院内研修の実施 ・職員表彰制度の継続実施
研修医・看護実習生等受入延べ人数 (人)	1,663	1,900	・院内受入体制の整備 ・研修プログラムの見直し、充実
職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的な回答割合 (%)	70.3	-	・タスクフォースによる改善の取組

【参考】令和7年度 一志病院 院長マネジメントシート

病院名	一志病院		
ビジョン	安心してこの地域で生活し続けられる医療を提供し、全国の医療過疎を解決する病院のモデルになります。		
経営方針	- あらゆるニーズに対応するプライマリ・ケアを実践します。 - 県民の皆さんが信頼し、自慢できる病院を目指します。 - プライマリ・ケアを担う人材を育成します。 - 職員の意欲と能力の向上に努めます。		
区分	経営シナリオ	目標	主な成果 (重要成功要因)
顧客の視点		プライマリ・ケアの実践 (全人的な医療サービスの提供)	かかりつけ患者の増加
		県民の皆さんが信頼し、自慢できる病院 (顧客満足度の高い医療の実践)	入院患者の増加 県内医療過疎地域への貢献 患者及び家族の満足度向上
財務の視点		経営の健全化	収支の改善
内部プロセスの視点		地域に最適な医療体制の構築	医師の充足 看護師の充足 関係機関・地域住民との連携強化
		総合診療医を中心とした地域医療	在宅療養の充実 救急医療体制の確立 予防医療の実践
		プライマリ・ケアを担う人材の育成 (地域医療を担う人材の教育)	研修医・医学生の受入体制の充実 看護師等育成の支援 プライマリ・ケアセンターへの支援
		プライマリ・ケアに関するエビデンスの創出 (実践的かつ先進的な研究の実施)	家庭医療等に関する研究の実施
学習と成長の視点		職員の意欲と能力の向上	危機管理対策の向上
		風通しの良い職場づくり	職員満足度の向上

- ・プライマリ・ケアに関するエビデンスを創出します。
- ・継続的な医療の提供のために経営の健全化に取り組みます。

業績評価指標	R6 実績	R7 目標	アクションプラン
1日平均外来患者数 (人/日)	51.9	65.7	・総合診療を中心とし、地域ニーズに合わせた外来診療体制の充実を図る。 ・予防医療やリハビリテーション、健康相談などを含む全人的な医療サービスを安定的に提供する。
1日平均入院患者数 (人/日) 【病床稼働率(%)】	32.4 【70.5】	37.0 【80.4】	・診療所、福祉施設、他の急性期病院等との連携を強化し、紹介患者数の増加を図る。 ・病床状況、平均在院日数等の情報を関係セクションで共有し、目標達成に向けた対策を講ずる。
医療過疎地域等への 支援件数(件)	3	5	・へき地医療拠点病院として、県へき地医療支援機構の要請に基づくへき地診療所への代診医の派遣や、津市の要請による診療所への医師派遣を通じた医療過疎地域の診療支援を行う。
患者満足度(%)	98.5	96.6	・患者様アンケートを通じて患者のニーズを把握し、サービス改善に取り組む。 ・接遇研修を実施し、職員の接遇能力の向上を図る。
経常収支比率(%)	105.2	102.8	・受入れ体制の強化や他医療機関との連携等に努め、入院、外来患者数増や単価増により収益増を図る。
医業収支比率(%)	66.4	66.3	・予防医療受診者の増により収益増を図る。 ・診療報酬に係る請求漏れ、減点対策等に取り組み、収益増を図る。 ・材料費、経費等の節減に努めることにより費用減を図る。
医師充足率(%)	100.0	100.0	・総合診療医の育成拠点としての研修環境を整備するなど医師にとって魅力ある病院づくりに取り組む。
看護師充足率(%)	100.0	100.0	・育児・介護のための休暇等が取得しやすい勤務環境を整備するなど看護師にとって魅力ある病院づくりに取り組む。
多職種連携による取 組件数(件)	18	15	・保健・医療・福祉連携会議の開催等により、関係機関と連携した取組を図る。 ・「顔の見える会」の活動等の取組を通じ、地域住民との連携を図る。 ・地域行事等へのボランティア参加を推奨し、地域貢献に努める。
訪問診療、訪問看護 等延べ患者数(人)	3,692	4,700	・関係医療機関、保健・福祉機関と連携し、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問薬剤指導、訪問栄養指導の件数増を図る。
救急患者受入件数 (救急車搬送患者を 含む)(件)	549	750	・宿日直体制を維持し、救急患者を受け入れる。 ・救急隊との合同勉強会や救急ホットラインの活用等により連携強化に努める。
住民健診、人間ドッ ク、がん検診、特定保 健指導受診者数(人)	946	1,200	・住民健診、人間ドック、がん検診をPRするとともに積極的に受け入れる。 ・健康教室等の予防医療に係る取組を通じ、健康管理に対する意識啓発を図る。
研修医・医学生受入 延べ人数(人)	598	500	・指導医による人材育成体制を強化し、研修医、医学生を積極的に受け入れる。
看護実習生等受入延 べ人数(人)	256	350	・看護師等育成に取り組む機関等と連携し、院内実習等を通じ人材育成の支援を行う。
プライマリ・ケア研修 会開催件数(件)	3	3	・三重県プライマリ・ケアセンターと連携し、プライマリ・ケア研修会の開催を支援する。
学会、論文等発表件 数(件)	21	20	・カンファレンス等を通じ職員の研究に取り組む意欲を醸成する。 ・研究を行うための職場環境を整える。
危機管理研修等参加 率(%)	100.0	100.0	・職員の医療安全研修、感染管理研修等への積極的な参加を促す。
職員アンケートの「満 足度」の設問での肯 定的な回答割合(%)	75.8	—	・職場内での対話等を通じて、職員がやりがいをもって、心身ともに充実して働ける職場環境づくりに努める。

【参考】 令和7年度 病院事業庁長マネジメントシート

病院名	三重県病院事業庁		
ビジョン	県立病院として良質な医療を安定的・継続的に提供することで、医療の面から県民と地域の安全・安心を支援します。また、医療従事者にとって魅力のある病院づくりを進めます。		
経営方針	県立病院としての役割や求められるニーズに応じた医療を提供するとともに、病院の健全経営を進めます。また、医師・看護師等の人材確保・定着を図るとともに、病院機能の充実、業務改善等に取り組みます。さらに、風通しの良い職場、思いを共有し、共に実践する組織をめざします。		
区分	経営シナリオ	目標	主な成果 (重要成功要因)
顧客の視点		安定的・継続的な医療の提供	患者満足度の向上 県立病院の役割・機能の提供 救急医療の充実 地域の関係機関等との連携強化 医療事故の防止 志摩地域における医療提供体制の整備
財務の視点		県立病院の健全経営	経常収支均衡
内部プロセスの視点		医療スタッフの確保 業務改善の推進 危機管理の推進とコンプライアンスの確立 指定管理者制度導入後の進捗管理	人材の確保・定着 研修医・看護実習生等の受入れ 改善活動の定着 災害医療体制の構築 リスクマネジメントの確立実践 コンプライアンスの確立実践 指定管理者による診療体制の充実
学習と成長の視点		風通しの良い職場づくり 一人ひとりの職員の力を伸ばす専門能力の向上	職員満足度の向上 コミュニケーションの向上 専門能力の向上(スキルアップ) 職員の危機管理意識の向上

業績評価指標	R6 実績	R7 目標	アクションプラン
患者満足度 (%)	93.5	95.0	・患者様アンケートの分析、改善活動 ・医療機関、県民等を対象とした研究会、講演会、セミナー、病院まつり等地域医療の水準向上、開かれた病院運営等の積極的な実施
訪問看護等延べ患者数 (人)	7,593	9,700	・こころの医療センターにおける地域生活支援機能の充実や一志病院における訪問診療・訪問看護等の在宅療養支援の充実 ※こころ:5,000人、一志:4,700人
救急患者・緊急対応患者受入件数 (件)	1,046	1,220	・救急医療の提供体制の確保 ※こころ:470件、一志:750件
関係機関等との連携件数 (件)	27	24	・地域の医療機関や大学、関係機関等との連携・協力関係の取組 ※こころ:9件、一志:15件
医療過誤数 (件)	0	0	・医療安全管理委員会等での事例収集・再発防止策の検討 ・医療事故防止をテーマとした医療安全研修への職員参加の徹底
志摩病院における入院患者数 (人/日)	172.4	208.0	・指定管理者による柔軟かつ迅速な運営のもと、診療機能の維持・充実を図るとともに、地域のニーズに応じた医療を提供
〃 外来患者数 (人/日)	243.5	309.0	
〃 救急患者数 (人/月)	332.2	503.0	
経常収支比率 (%)	88.8	98.7	・2病院の医業収支比率の改善
医業収支比率 (%)	54.5	64.1	
1日平均入院患者数 (人/日)	226.1	274.0	
1日平均外来患者数 (人/日)	230.1	265.7	
医師充足率 (%)	87.9	100	・医師確保(県医療保健部との連携、大学等への医師派遣要請等) ・勤務医にとって魅力や働きがいのある職場環境づくり(医師の研修環境の充実、学会等への参加の柔軟化や良好な住環境の確保等)
看護師充足率 (%)	100.0	100.0	・看護師の確保・定着のための修学資金制度の周知・活用、看護実習や新人看護師への技術支援体制の充実等
研修医・看護実習生等受入延べ人数 (人)	2,517	2,750	・研修医等の受入体制の確保 ・研修や実習の充実 ・研修指導医、看護実習指導者等の育成 ※こころ:1,900人、一志:850人
業務改善取組テーマ数 (件)	3	3	・患者等のニーズに応じた改善、ホームページの充実や積極的な情報発信、紙資料・プラスチックごみ削減の3つをテーマに掲げ、業務改善活動を推進
災害時の医療支援訓練実施回数 (回)	7	6	・自然災害等を想定した図上訓練の実施等(各病院2回) ・災害支援体制の確立、院内備蓄の整備・充実
医療安全委員会の開催回数 (回)	24	24	・医療安全対策・感染対策の充実、マニュアルの適切な運用・不断の見直し・検討 ・個人情報管理等安全確保のための組織の充実
研修会等の実施 (回)	9	9	・コンプライアンスの確立に向けた取組の実施等(各所属3回)
管理運営協議会の開催 (回)	2	2	・指定管理者との連携・調整に係る体制づくり
職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的な回答割合 (%)	73.3	—	・日頃のコミュニケーションや報告・連絡・相談を大事にした明るく風通しの良い職場づくりの推進 ・Mieるビーイングシート等を活用した対話の実施
病院現場との定例的な会議の開催 (回/月)	6	6	・現場やコミュニケーションを重視して思いを伝えあい、共有し、共に実践する組織づくり
職員アンケート「プロとして成長しているか」の設問での肯定的な回答割合 (%)	72.8	—	・研究・研修環境の整備・充実、研究発表の推進(専門分野での資格取得のための支援、研修体系の整備、研修機会の確保と活かせる環境の整備、研究研修費の確保等)
危機管理研修等参加率 (%)	100.0	100.0	・医療安全研修会等の開催及び職員参加の徹底